

研究分野	資源評価	機関・部	水産総合研究所・資源管理部
研究事業名	重要魚類資源モニタリング調査		
予算区分	研究費交付金（産技センター）		
研究実施期間	H19～H25		
担当者	高橋 宏和		
協力・分担関係	なし		

#### 〈目的〉

青森県の重要な水産資源であるタラ類（マダラ、スケトウダラ）、カレイ類（ババガレイ、マコガレイ、ムシガレイ、ヤナギムシガレイ、マガレイ）、ヤリイカ、ハタハタ、ヒラメの計10魚種の分布密度、分布時期、分布域の広がりの現状と動向を分析する。

#### 〈試験研究方法〉

日本海、津軽海峡及び太平洋海域に34ヶ所の調査点を設定し、試験船青鵬丸により、平成21年4月～平成22年3月にかけて網口約2mのオッタートロール網を使用し、原則として1調査点30分の曳き網調査を実施した。採捕されたサンプルは魚体測定（全長、体長、体重）を行った。

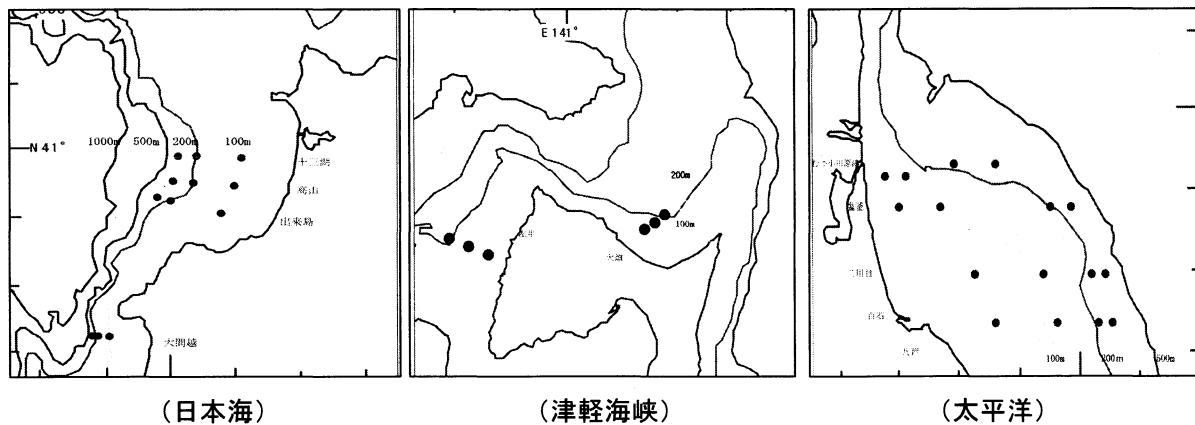


図1 調査点

#### 〈結果の概要・要約〉

日本海の11月におけるハタハタは水深300mに多く分布し、オスメスの割合を見ると11月中旬にはオスが、11月下旬にはメスが多くかった（表1）。ハタハタの標準体長は、オスで13～28cm、メスで15～21cmであった（図2）。

太平洋の10月におけるヤリイカ幼体は、水深80mに多く分布し、外套長は70～80mm台が主体であった。10月の全調査点での平均分布密度は1.2個体/1,000m<sup>2</sup>であった（図3）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 ハタハタ分布密度 (尾/1,000 m<sup>2</sup>)

調査日	調査点	オス	メス
11月13日	出来島沖水深200m	0	0
	出来島沖水深300m	536	148
11月24日	高山沖水深200m	25	25
	高山沖水深300m	274	431
11月25日	十三沖水深200m	59	0
	十三沖水深300m	504	661
平均		233	211

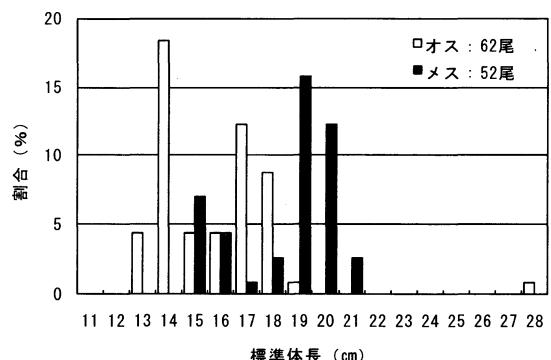


図2 ハタハタ体長組成

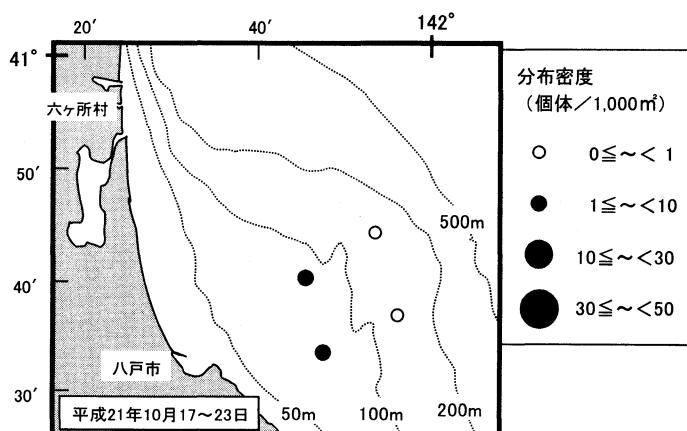


図3 ヤリイカの調査点別分布密度

〈今後の問題点〉

特になし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

平成21年度日本海漁業者協議会でハタハタ調査結果について発表。

新深浦町漁協岩崎支所・鰺ヶ沢漁業協同組合でのヤリイカ・ハタハタ勉強会で発表。